

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 (西フロア)		
所在地	新城市矢部字広見55-1		
自己評価作成日	平成31年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosyoCd=2394000042-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は地域との交流を通しての認知症ケアに力を入れてきました。中でもこども園との交流は、地域の事業である「こども食堂」を利用させて頂き、園児たちと給食を食べながら交流を図りました。今年で3年目となる認知症カフェの運営に関しては、地域のボランティアや企業に協力居て頂き運営を行っています。現在、グループホームの入居者、一般の参加者を合わせ総勢20名以上が参加しています。また、RUN伴にも参加し、市内の他グループホームと協力し合し、市を巻き込んだ認知症啓発も行いました。来年度も地域に根差した認知症ケアを行うと共に、入居者のADLの維持に努めたケアを行っていきたくと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の交代があったが、これまで通りの理念を踏襲してホーム運営が行われている。新管理者は、今後のホーム方針として、「地域とのつながりを重視する」ことを明言している。毎月の認知症カフェ(あののん喫茶)には、地域からの参加がある。秋の「RUN伴」は盛況で、運営推進会議でも称賛の声が多い。地域の祭りに参加した際には、利用者用に席が確保されている。「軽トラ市」で旧友に会い、後日友人宅を訪問した利用者もいる。
利用者の尊厳や権利の擁護に努めている。自らの意思を表出できる利用者には、選挙時に投票会場まで付き添って選挙権の行使を支援している。就寝前の入浴にこだわる利用者には、夕食後の入浴を支援している。利用者の希望や体調等を考慮し、何種類もの散歩コースが用意されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎朝、唱える事で職員全員が理念を念頭に置き業務に取り組んでいる	管理者の交代があったが、これまで通りの理念を踏襲している。新管理者は、今後のホーム方針として、「地域とのつながりを重視する」ことを明言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェや地域の行事に参加し、地域住民との交流を行っている。また、日常生活では散歩を行っている中で、地域の人と出会う機会もあり、自然と馴染の関係が築けている	認知症カフェ(あののん喫茶)が毎月開催され、地域からの参加がある。秋の「RUN伴」は盛況で、運営推進会議でも称賛の声が多い。地域の祭りに参加した際には、利用者用に席が確保されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は市内のグループホームと協力し、新城市全体を巻き込んだRUN伴を開催し、認知症の啓発活動に貢献した。ご家族様にも一緒に参加して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意見を参考にしながら、外出支援先を考えたりしている。また、施設の取り組みに興味を持ってくださり、協力して下さる参加者もいる	利用者、家族、市議員、区長、地域包括支援センター職員、民生委員、こども園園長、他法人の知見者等、多彩なメンバーを集めて運営推進会議を開催している。時間が足りないほどの熱心な意見交換がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度から管理者が新城市の地域支援部会の部員になり、情報交換等を盛んに行っている。また高齢者分野だけでなく、障害や児童の分野とも連携を図り、ケアの向上に努めている。	管理者が、市の地域支援部会員として活躍するだけでなく、キャラバンメイト(認知症サポーター養成講座講師)として学校訪問をしている。東三河広域連合が発足し、今後新たな連携が始まる。	これまでの“市”の対応と、今後の“広域連合”の対応とで、様々な相違や変更が出る可能性がある。情報収集を綿密にし、“抜け”の無いホーム運営を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等は行っていないが、行わないことによって生じるリスク等を考え、エスケープ等が起こらないように、他施設の離脱前マニュアルを参考にし、当施設のマニュアルを作成中である。また、スピーチロックなど目に見えない拘束についても理解し業務に就くようにしている。	今年度より法制化された「身体拘束対策委員会」を開催しており、運営推進会議の中で、その報告を行っている。玄関には施錠はないが、利用者の安全を考慮して、対応するマニュアルの見直しを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回開催される連絡協議会の研修に必ず施設から1人参加するようにし、参加した職員はカンファレンス等で現場職員に伝えられるような場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している方がいるが、制度については学ぶ機会がない。社会福祉協議会と連携を図って相談に応じて対応を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等は書面や運営推進会議等で説明すると共に家族への説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者、家族が意見を言いやすい関係作りを心がけており、もらった意見はカンファレンス等で話し合い、運営の向上に努めている	運営推進会議や来訪時に、家族の意見や要望を聞き取っている。通院の付き添いを「家族対応」に変更したが、特段の反対意見は出していない。「HOME NEWS」が毎月家族に届けられ、職員の手紙付きもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は否定せずに、まずはやってみる事を勧め、職員のやる気を損なわせないように配慮している	新管理者は在職8年と長く、他の職員とも気心が知れている。職員の年齢差はあるが、何でも言いやすい雰囲気がホーム内にはある。月に1回ずつ、「ユニット会議」と「全体カンファ」が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足や入居者の重度化により、職員の負担が増えている現状で、賃金などの問題に関して不平不満はあるが、やりがいの部分については個々の職員のやりたい事は実践できており、やりがいには繋がっていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は実践者研修に2名、リーダー研修に1名、また連絡協議会等の研修など様々な研修に取り組む機会があり、スキルアップや、やる気に繋がっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入しており、年4回に会議の他、分からないことなども相談し合い、常に連携を図っている。その関係性を事例発表として名古屋で発表を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階でご本人様が不安にならないように職員が積極的に声を掛け、他者との仲立ちに職員がなり、スムーズにコミュニケーションが図れるように支援をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各入居者に一人担当を設け、いつでも家族が相談できる信頼関係の構築に努めている。また、3ヶ月に1回、担当者から家族に手紙を送るようにしている。毎年、年度初めに家族との懇談会を開催し、相談の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後おこり得る状況を踏まえた事前説明を行い、本人、家族が納得のいくサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食器洗いなどを職員と入居者が一緒に共同作業する場を設けている。昨年度までは調理も週一回設けていたが、調理ができる入居者が少なく、職員がほとんどやってしまう形になってしまい、現在は中止している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の際、家族だけでは困難な場合などには職員と一緒に付き添うなどの支援を行い、疎遠になっているご家族様には声掛けを行い、面会に来て頂けるように促している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ショートステイに入居者様の知人が利用された際はショートステイと連携を図り、交流できるように支援している。また、実家のある場所に定期的にドライブに出掛けたりしている。	地域の「軽トラ市」に出かけた利用者が旧友に会い、話に花が咲いて、後日友人の自宅に遊びに行った。併設のショートステイで、利用する恩師と再会した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が出来なかったり、難聴の方に対し、職員が間に入り、会話の仲立ちを行ったり、BPSDに対する理解が出来ていない入居者様に対しては理解してもらえるような説明、声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	親戚の入所相談に応じたり、家で取れた野菜を持って来て下さったりと、退所されてからも定期的に交流を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを尊重し、外出レク等の行先は入居者の意見を基に行先を決めている。また、日常生活の中でも個々の行きたいところについていつでも行く事ができる体制を取っている	自らの意思を表出できる利用者は、約半数である。思いや意向を掴んだ時には、利用者の思いを叶えるべく可能な限り職員が行動を起こしている。	利用者の意向等に即座に対応できたものは良いが、時間がかかったり、綿密な事前の準備が必要な案件もある。それらを記録に残し、介護計画へ反映させることを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族や知人からも情報を得て、本人らしく生活できるように努めている。また、生活歴から本人が得意としているものを見つけ、達成する事で喜びを実感し、更なる意欲の向上に繋げていけるように努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人らしい生活を支援する他、本人ができることを生活の中で奪わないように、職員同士の情報共有を行いながら、最善のケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年度初めの懇談会での話し合いを軸に、定期的なユニットカンファレンスを行いながら、その都度、個々の課題を話し合い、介護計画の見直しや、火あめの質の向上を図っている	介護計画は、デイリーチェックの仕組みがあり、モニタリングは3ヶ月毎に行っている。4月の年度初めに、家族全員を対象とした意見の聞き取りを行っており、意見・要望を介護計画に反映させる仕組みがある。	アセスメントやモニタリング、把握した利用者の意向、聞き取った家族の意見・要望等、介護計画策定の主要な要素が連結していない。介護計画策定の手順を確定されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の問題点などを記録の中から抽出しカンファレンス等で話し合い検討し合う他、問題点だけでなく、ケアのヒントを見つけ新たな支援へ繋げていけるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新聞のチラシを見て「食べたい」「買い物にいきたい」「～に行きたい」などの声に耳を傾け、突発的に出掛ける事も多々ある。その際、安全面にも心掛け、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内で行われるイベント情報を把握し、可能な範囲内で社会参加し、生活に潤いをもたせている。また、今年度は年間行事となっている歌舞伎観賞にて、現地にボランティアスタッフを配置するなどの提案を行い、実践に移すことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に協力医療機関に主治医を変更しても良いか家族から承諾を受け、主治医とは入居者の情報の共有や、些細な事の相談もできる関係作りを行っている。	ホーム協力医の往診対応がないため、これまでは職員が通院付き添いを行っていた。それを変更し、家族の協力を得て「家族対応」での通院受診とした。当面は柔軟な対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出動している時は、皮膚疾患や本人の体調等を相談でき、受診が必要であれば即受診できる体制を取っている。また、看護師不在時はケース記録を通し、確実な連携を図るように心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常に入院先との情報の共有を図り、退院後も入院先からの情報を基に、介護計画を立て直し、入院先からアドバイスをもらいながら支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護3になった時点で今後は家族へ特養の選択肢が出来るようになったことを伝え、家族と今後について話し合う機会を設ける。また、医療が必要になった場合など、予めどのような選択肢があるのかを家族に伝え、心づもりをして頂くように努めている	ホームでの看取りを否定するわけではないが、介護度が3になった時点で、“適切な施設”の話を利用者・家族にしている。利用者・家族から「特養見学」の希望があれば、職員も同行して施設見学を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大半の職員は介護福祉士を取得や実務者研修修了をしており、基本的な知識は兼ね揃えているが、その場の状況に臨機応変に対応できるかは疑問である。他施設での救急救命講習などに参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ショートステイと合同で防災訓練を開催している。また、地区の防災訓練にも参加し、地域住民にサマリヤの存在を知っていただくように努めている。今年度は消火器を使っての消火訓練にも入居者が参加した。	併設事業所と合同で、年間2回の防災訓練を実施している。地域の合同防災訓練にも参加し、利用者も車で避難場所まで移動した。常に食料の準備があることから、災害時用の備蓄はしていない。	同法人の老健施設が隣接地にあるが、それが持つ備蓄品を頼ることなく、ホームとしても食料品等の備蓄を確保されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性介護を望む方に対しては要望通りの対応を行い、パットをチェックされることに抵抗のある方に対しては入浴の際に自然と確認が出来るように毎日夜間入浴を行っている	利用者一人ひとりを大切にするホーム理念に沿い、利用者の尊厳や権利の擁護に努めている。自らの意思を表出できる利用者には、選挙時に投票会場まで付き添って選挙権の行使を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の自己満足にならないように、個々の意見を尊重し、職員は個々の言葉に耳を傾け、表情などを観察し、より良い支援に繋がっていくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちな面があり、個々のペースに沿った支援を心がける必要があるが、職員はその日の過ごし方については、個々の意見に耳を傾け要望に応じ、満足して過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	眉毛を書いたり、口紅を塗ったり、職員と一緒に服を買いに行ったりと、女性入居者様は女性職員に支援してもらう機会が増えてきた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で新聞や広告を見ながら好きな食べ物を買ったり、個々の好物の把握に努め、イベント等で提供している。また、普段の食事は作る事は行っていないが、盛り付けや片付け等を職員と一緒にしている	隣接する老健施設の栄養士が献立を作成し、同じく老健施設で調理した食事がホームに届けられる。誕生日やイベント時の食事は、利用者の嗜好を考慮した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好きな物、嫌いな物を把握すると共に、器や食材の大きさなどを個人の状態や要望に応じて変更し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	平成31年2月から口腔ケアの往診を再開する。また、定期的に歯科衛生士から指導が受けられる環境を設け、職員全員が口腔ケアの知識を持ち、誤嚥や誤嚥性肺炎の発生を防ぐように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、布パンツでの生活を試みたりなど、オムツやリハビリパンツに頼らない生活を本人と共に目指している。	トイレでの排泄を基本とし、適切な声掛けやトイレ誘導を行って排泄改善を目指している。介護度4のオムツ使用の利用者が、オムツが外れるとともに、歩行改善につながった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供し、適度に水分補給を行うほか、適度な運動を毎日行うように努め、薬に出来るだけ頼らず、自然排便が出来るように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回は入っていただくように心がけている。職員の都合で入浴しないように、出来る限り本人の希望する時間に入らせていただくように、夜間入浴等も行っている	利用者の希望があれば、夕食後の夜間入浴にも対応している。一日置きの入浴を基本としており、お気に入りの保湿剤、石鹸、シャンプー等を持ちこんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を考慮しながら、昼食後に臥床して頂いたり、夜間不眠気味の方に対しては昼間に運動を行うように支援している。自立できている方は各自、自由に休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬のセットを行い、職員も薬の内容等が常にわかるように、処方箋を綴ったファイルを完備している。本人の状態に応じ、管理者に相談しながら下剤の調整も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から、個々のニーズを引き出し、支援している。今年度は書道が得意な入居者様に、雑誌の投稿欄へ応募していただき、見事最優秀賞を取られ、本人のやる気にも繋がった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の何気ない会話から行きたい場所などを聞きだし、外出支援の実現に向けて、散歩等を行い体力作りも日々行っている。また、遠方への外出支援は家族に同伴していただくなどの対応を行い実施している。	何種類もの散歩コースが設定されており、利用者の希望や体調、散歩に要する時間等を考慮してコースを決めている。春の桜、夏の蛍、秋の紅葉と、少し足を伸ばすだけで豊かな四季が満喫できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い方は、家族に了承を得て個々が自由に使える体制を取っている。中には他者を買ってあげる事が好きな方もいらっしゃる、そういった方にはお金を使い過ぎないように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと要望のある方に対してはいつでも電話できるように支援しているが、家族の中には連絡をしてほしくない方もいらっしゃる、家族に確認を取ってから電話を掛けて頂くように支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁等に季節感が味わえる装飾品を飾り、外出やイベント行事などの写真を掲示する事で、思い出を振り返ってもらったり、馴染の歌謡曲を流し、思い出に浸しんだりする機会を設けている	築8年のホームであるが、内外ともに清掃が行き届き、清潔感がある。事務室を挟んで両側にユニットを配し、機能的なレイアウトである。通路やリビングの壁面には利用者の作品を掲示しており、特に習字の作品は秀逸である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの人間関係に配慮しながら食堂の席の配置を決めたり、仲の良い入居者同士で外出する機会を設けている。また、お互い刺激し合える関係の構築が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、使い慣れた家具を持ち込んで頂くと共に、ご本人の生活スタイルによって、和室にするか洋室にするかを定める時もある。また、トイレに頻回に行かれる方に対しても、トイレから近い部屋を用意するなどの配慮を行っている	多趣味な利用者が居室を案内してくれた。ホームで創作した小作品が飾られ、絵画、書道、手芸等の作品に混じって、お孫さんの写真が大事そうに飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の「出来る事」「できない事」の把握に努め、夜間のトイレが心配な方にはポータブルトイレの設置やトイレの近くに部屋替えを行うなどの配慮を行っている。部屋替えについては、個人はもちろん家族や他者へに同意を得て行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 (東フロア)		
所在地	新城市矢部字広見55-1		
自己評価作成日	平成31年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2394000042-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は地域との交流を通しての認知症ケアに力を入れてきました。中でも子ども園との交流は、地域の事業である「こども食堂」を利用させて頂き、園児たちと給食を食べながら交流を図りました。今年で3年目となる認知症カフェの運営に関しては、地域のボランティアや企業に協力居て頂き運営を行っています。現在、グループホームの入居者、一般の参加者を合わせ総勢20名以上が参加しています。また、RUN伴にも参加し、市内の他グループホームと協力し合し、市を巻き込んだ認知症啓発も行いました。来年度も地域に根差した認知症ケアを行うと共に、入居者のADLの維持に努めたケアを行っていきたく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて毎朝、唱える事で職員全員が理念を念頭に置き業務に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェや地域の行事に参加し、地域住民との交流を行っている。また、日常生活では散歩を行っている中で、地域の人と出会う機会もあり、自然と馴染の関係が築けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は市内のグループホームと協力し、新城市全体を巻き込んだRUN伴を開催し、認知症の啓発活動に貢献した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意見を参考にしながら、外出支援先を考えたりしている。また、施設の取り組みに興味を持ってくださり、協力して下さる参加者もいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度から管理者が新城市の地域支援部会の部員になり、情報交換等を盛んに行っている。また高齢者分野だけでなく、障害や児童の分野とも連携を図り、ケアの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等は行っていないが、行わないことにより生じるリスク等を考え、エスケープ等が起こらないように、他施設の離設前マニュアルを参考にし、当施設のマニュアルを作成中である。また、スピーチロックなど目に見えない拘束についても理解し業務に就くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回開催される連絡協議会の研修に必ず施設から1人参加するようにし、参加した職員はカンファレンス等で現場職員に伝えられるような場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している方がいるが、制度については学ぶ機会がない。社会福祉協議会と連携を図って相談に応じて対応を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等は書面や運営推進会議等で説明すると共に家族への説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者、家族が意見を言いやすい関係作りを心がけており、もらった意見はカンファレンス等で話し合い、運営の向上に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は否定せずに、まずはやってみる事を勧め、職員のやる気を損なわせないように配慮している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足や入居者の重度化により、職員の負担が増えている現状で、賃金等などの問題に関して不平不満はあるが、やりがいの部分については個々の職員のやりたい事は実践できており、やりがいには繋がっていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は実践者研修に2名、リーダー研修に1名、また連絡協議会等の研修など様々な研修に取り組む機会があり、スキルアップや、やる気に繋がっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入しており、年4回に会議の他、分からないことなども相談し合い、常に連携を図っている。その関係性を事例発表として名古屋で発表を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階でご本人様が不安にならないように職員が積極的に声を掛け、他者との仲立ちに職員がなり、スムーズにコミュニケーションが図れるように支援をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各入居者に一人担当を設け、いつでも家族が相談できる信頼関係の構築に努めている。また、3ヶ月に1回、担当者から家族に手紙を送るようにしている。毎年、年度初めに家族との懇談会を開催し、相談の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後おこり得る状況を踏まえた事前説明を行い、本人、家族が納得のいくサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食器洗いなどを職員と入居者が一緒に共同作業する場を設けている。昨年度までは調理も週一回設けていたが、調理ができる入居者が少なく、職員がほとんどやってしまう形になってしまい、現在は中止している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の際、家族だけでは困難な場合などには職員と一緒に付き添うなどの支援を行い、疎遠になっているご家族様には声掛けを行い、面会に来て頂けるように促している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ショートステイに入居者様の知人が利用された際はショートステイと連携を図り、交流できるように支援している。また、実家のある場所に定期的にドライブに出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が出来なかったり、難聴の方に対し、職員が間に入り、会話の仲立ちを行ったり、BPSDに対する理解が出来ていない入居者様に対しては理解してもらえるような、説明、声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	親戚の入所相談に応じたり、家で取れた野菜を持って来て下さったりと、退所されてからも定期的に交流を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の声に耳を傾ける事には普段から努めており、本人様が思い等を話しやすい関係作りを職員は目指している。生まれ故郷が静岡の方に対しては家族に協力を経て、静岡まで外出したこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族や知人からも情報を得て、本人らしく生活できるように努めている。また、生活歴から本人が得意としているものを見つけ、達成する事で喜びを実感し、更なる意欲の向上に繋げていけるように努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人らしい生活を支援する他、本人ができることを生活の中で奪わないように、職員同士の情報共有を行いながら、最善のケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年度初めの懇談会での話し合いを軸に、定期的なユニットカンファレンスを行いながら、その都度、個々の課題を話し合い、介護計画の見直しや、火あとの質の向上を図っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の問題点などを記録の中から抽出しカンファレンス等で話し合い検討し合う他、問題点だけでなく、ケアのヒントを見つけ新たな支援へ繋げていけるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新聞のチラシを見て「食べたい」「買い物にいきたい」「～に行きたい」などの声に耳を傾け、突発的に出掛ける事も多々ある。その際、安全面にも心掛け、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内で行われるイベント情報を把握し、可能な範囲内で社会参加し、生活に潤いをもたせている。また、今年度は年間行事となっている歌舞伎観賞にて、現地にボランティアスタッフを配置するなどの提案を行い、実践に移すことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に協力医療機関に主治医を変更しても良いか家族から承諾を受け、主治医とは入居者の情報の共有や、些細な事の相談もできる関係作りを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤している時は、皮膚疾患や本人の体調等を相談でき、受診が必要であれば即受診できる体制を取っている。また、看護師不在時はケース記録を通し、確実な連携を図るように心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常に入院先との情報の共有を図り、退院後も入院先からの情報を基に、介護計画を立て直し、入院先からアドバイスをもらいながら支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護3になった時点で今後は家族へ特養の選択肢が出来るようになったことを伝え、家族と今後について話し合う機会を設ける。また、医療が必要になった場合など、予めどのような選択肢があるのかを家族に伝え、心づもりをして頂くように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大半の職員は介護福祉士を取得や実務者研修修了をしており、基本的な知識は兼ね揃えているが、その場の状況に臨機応変に対応できるかは疑問である。他施設での救急救命講習などに参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ショートステイと合同で防災訓練を開催している。また、地区の防災訓練にも参加し、地域住民にサマリヤの存在を知っていただくように努めている。今年度は消火器を使っての消火訓練にも入居者が参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性介護を望む方に対しては要望通りの対応を行い、パットをチェックされることに抵抗のある方に対しては入浴の際に自然と確認が出来るように毎日夜間入浴を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の自己満足にならないように、個々の意見を尊重し、職員は個々の言葉に耳を傾け、表情などを観察し、より良い支援に繋がっていくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちな面があり、個々のペースに沿った支援を心がける必要があるが、職員はその日の過ごし方については、個々の意見に耳を傾け要望に応じ、満足して過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りを毎日行う習慣を身に付けていただき、坊主の利用者様に対しては、職員がコミュニケーションを取りながら個々の要望に応じ、バリカンを使い髪の毛をセットを行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で新聞や広告を見ながら好きな食べ物を買ったり、個々の好物の把握に努め、イベント等で提供している。また、普段の食事は作る事は行っていないが、盛り付けや片付け等を職員と一緒にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好きな物、嫌いな物を把握すると共に、器や食材の大きさなどを個人の状態や要望に応じて変更し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	平成31年2月から口腔ケアの往診を再開する。また、定期的に歯科衛生士から指導が受けれる環境を設け、職員全員が口腔ケアの知識を持ち、誤嚥や誤嚥性肺炎の発生を防ぐように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンなどを職員同士で情報の共有を行い、自立して排泄が出来るように支援するほか、自力で排泄が困難な方でも、トイレで排泄が出来るように2人介助で支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供し、適度に水分補給を行うほか、適度な運動を毎日行うように努め、薬に出来るだけ頼らず、自然排便が出来るように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回は入っていただくように心がけている。職員の都合で入浴しないように、出来る限り本人の希望する時間に入っていただけるように、夜間入浴等も行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を考慮しながら、昼食後に臥床して頂いたり、夜間不眠気味の方に対しては昼間に運動を行うように支援している。自立できている方は各自、自由に休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬のセットを行い、職員も薬の内容等が常にわかるように、処方箋を綴ったファイルを完備している。本人の状態に応じ、管理者に相談しながら下剤の調整も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から、個々のニーズを引き出し、支援している。今年度は書道が得意な入居者様に、雑誌の投稿欄へ応募していただき、見事最優秀賞を取られ、本人のやる気にも繋がった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の何気ない会話から行きたい場所などを聞きだし、外出支援の実現に向けて、散歩等を行い体力作りも日々行っている。また、遠方への外出支援は家族に同伴していただくなどの対応を行い実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	随時、入居者から要望があれば買い物に行けるように支援を行っており、お金を常に持っていないと不安になられる方に対しては家族に了承を得て、個人で所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと要望のある方に対してはいつでも電話できるように支援しているが、家族の中には連絡をしてほしくない方もいらっしゃるので、家族に確認を取ってから電話を掛けて頂くように支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁等に季節感が味わえる装飾品を飾り、外出やイベント行事などの写真を掲示する事で、思い出を振り返ってもらったり、馴染の歌謡曲を流し、思い出に浸しんだりする機会を設けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの人間関係に配慮しながら食堂の席の配置を決めたり、仲の良い入居者同士で外出する機会を設けている。他フロアへの行き来も自由で他フロアに遊びに行かれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、使い慣れた家具を持ち込んで頂くと共に、ご本人の生活スタイルによって、和室にするか洋室にするかを定める時もある。また、トイレに頻回に行かれる方に対しても、トイレから近い部屋を用意するなどの配慮を行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の「出来る事」「できない事」の把握に努め、夜間のトイレが心配な方にはポータブルトイレの設置やトイレの近くに部屋替えを行うなどの配慮を行っている。部屋替えについては、個人はもちろん家族や他者へに同意を得て行っている		